

カンピオーネ バルトネツラ インフォマツィオーニ アヴァンツァーテ  
ダル・スオ・リブロ・ディ・テスト・バルトネツラ、アテッサ・チェ・オ  
フレ・アイウト・ア・メディシ・エ・パツィエンティ

ピエ

L'UNICO ARTICOLO DI RICERCA SU BARTONELLA E  
DEPRESSIONE, PANICO E ANSIA。

レッジ・デツタツリ・アフアシナンティ・ディ・パツィエンティ・インタ  
レッサンティ・エ・グアリティ

オートレ :

ジエームス・シャラー、医学博士、マール PERSO

NALCONSULT.COM

\*チャットを有効にしてください。

**\*HA SCRITTO 14 LIBRI SU BABESIA、バルトネツラ、バイ  
オフィルム ED ERBE**

**\*E PUBLICATO IN 12 RIVISTE SCIENTIFICHE IMPORT  
ANTI**

**カンピオーネ・ヌオーヴェ情報 バルトネツラ**

**Alcuni commenti dalle 600 pagine del mio  
libro di testo Bartonella in attesa.**

**ラ・バルトネツラ・エ・ララ?**

8% のポポラツィオーネ、2 番目のデッコの仕事、そしてあらゆる状況を考慮した最適な方法を検討してください。

**バルトネツラ・ネル・サングエの DNA の 20%を確認してください。[署名。ドラモンド。他。PLoS ネグ  
ル・トロップ・デイス. 2023 giugno;17 (6)].**

**バルトネツラに問題はありますか?**

**アツソルタメンテ トウツト。ペルシエ? 地球上のすべてのこと、すべてのことを調べて、すべてのことを調べて、すべてのことを理解してください。クアランケ・コーサ。**

## バルトネツラを食べますか？

最も重要な医学は、医療に必要な情報を提供することです。安全な管理と治療のための医療処置を行っています。

-----

-----

「バルトネツラの感染症は、パニックやうつ病に影響を及ぼしていますか？」ジェームズ・L・シャラー医学博士ほか

[ダルブログメディコパーソナルコンサルト.com]。

「バルトネツラの感染症は、パニックやうつ病に影響を及ぼしていますか？」ジェームズ・L・シャラー、他。バ

ルトネラと精神病の感染症に関する研究を行っています。

すべての専門家が、バルトネッラ フェリスチェ イルト  
ウオー モレ エイトウオイ ペンシエリを学びます。攻撃  
性を挑発し、攻撃的な攻撃を仕掛け、不正行為  
を行い、パサートでの攻撃を阻止します...

1. Bartonella possono の感染症は、パニックや  
うつ病への影響を及ぼします。Galaxy Diagnosti  
cs、TLabs、IGENEX または DNA 接続について  
詳しく知りたいですか?バルトネッラの素晴らしい研  
究室です。

2. バルトネッラの感染は脳に影響を与えません  
。調査は、すべての情報と、完璧なサングイグニと

、セルヴェツロのリドッタ オシゲナツィオーネを確認します。

### 3 診断を適切に行うためのオプション。

バルトネツラの重要なテストは、原則として行われる必要はありません。バルトネツラの新しい出版物を探します。

Ad esempio, un uomo di 30 anni ha sviluppato grave ansia, agitazione e pressione dopo essere stato morso da una zecca. 私は、標準的な精神病治療を行っているにもかかわらず、抗生物質と精神病治療薬の組み合わせを適切に管理しています。

バルトネッラ コルピスコノ イル チェルヴェッロの感染症。あらゆる内部の細胞の内部に侵入し、完全な内部構造を再現し、すべてのパレティ デイ ヴァシ サンギーニを攻撃します。完璧なサングイグノとセルヴェッロのリドッタ オシゲナツィオネをすべて備えています。精神病の可能性を探る研究。

バルトネッラの研究室の専門性と優れた研究室で、バルトネラの研究室ごとにテストを検討し、医療と患者の準備を自動的に行います。あなたの人生を最大限に楽しんでください:

- a. **IgeneX Labs: Bartonella** の数値テストを行っています。あなたのアイデアを考えて、私はオフロノをテストしてください。バルトネッラの文化を創造する可能性を検討してください。バルトネッラ

の素晴らしいパートをマンチェラは、バルトネッラを 100% 保証しています。PCR や FISH に費やす必要はありません。

- b. **Galaxy Labs:** IFA をテストしてみました。可能な場合は、ddPCR検査ごとにカンピオーネ ディー サングエを実施してください。
- c. **TLABS** は、バルトネラのバイオフィルムの生産性と 2 月のライムの最も優れたバイオフィルムを視覚化します。
- d. **DNA 接続**は、DNA を最大限に活用するのに最適です。Questo には Bartonella が含まれます。リチェドノ・ウン・カンピオーネ・ディ・ウリーナ。

L'ARTICOLO N. 1 SU Bartonella CHE CAUSA うつ病、イライラ、パニック、アンシア、ミオ。

コンディバイド・アフアシナンティ・デターグリ・デル・パジエンテ。

---

# バルトネツラの不安やパニック、うつ病の影響 はありますか？

[James L. Schaller](#)、MD、MAR、他アル

ナポリのメディチ専門医師、

## メディシナ・ジェネラル・メディスケープ。

2007年; 9(3): 54.PMCID : PMC2100128。 PMID: [18092060](#)

### はじめに

ラ・バルトネツラは、非常に危険な状況にあり、周辺地域と田舎の地域を危険にさらしています。私は、2 種ごとの定期的なオフロノ テストをソロで行うための研究所であり、9 年間の状態のスコープで、15 年に 15 年間の検査が行われます。バルトネツラの日常的な治療法

に従って、バルトネツラの状態を把握し、重大な病気を考慮する必要があります。異常な状態には、視覚的歪み、ドロレ・アドミナーレ、重篤な異常、異常な重度の異常、トロンボシトペニカ、骨性疾患、アトライト、アセツシ、問題のある心臓の心臓、および弁論状心臓痛が含まれます。バルトネツラの研究は、マラッティの神経学的原因、マラッティの精神医学、飯能の限界を超えて起こります。集中力のない集中力のある精神科医と、偶発的な共産主義の単独の危険性。クエストでは、パニックやうつ病に対処するための情報、バルトネツラの特徴を理解するための情報を提供します。

## メトディ

患者は、パニックに陥ったうつ病やパニック障害など、個人的な症状や不安を抱えた患者の治療に積極的に取り組んでいます。バルトネツラに関する証拠に関する過去の状況を調査します。医療と精神医学の進行状

況を監視し、バルトネツラの状況を監視し、状況に応じて安全な状況を監視します。

## リスルティ

私は、正常な機能ごとに抗うつ薬、ベンゾジアゼピンまたは抗精神病薬の治療を行っています。バルトネツラ感染症に対する抗生物質の安全確保と予防措置の確保を目指します。非常に重要な影響を及ぼしているのは、そのトルナティ・アル・ロロ・スタト・ディ・サルート・メンタル・ディ・ベース・先行メンテ・サノ・準常態である。

## ディスカッション

Nuove specie di *Bartonella* stanno emergendo  
Come infezioni umane。ポリメラーゼ対策 (PCR) による検査診断の非処理の重大な瞬間。さまざまな機能を備えたマニュアルを作成し、さまざまな機能を備えたさまざまな機能を備えた、安全な機能を備えた、視

覚的な視覚化された視覚的な技術と、限界に達した検査機能を備えています。緊急事態が発生した場合、バルトネツラ ネグリ エッセリ ウマーニは、感染症や感染症、微生物学、病理学的問題など、非常に重要な情報を提供します。

## 結論

バルトネツラと同様の症状を呈し、深刻な精神病を引き起こす可能性があります。バルトネツラの感染症の危険性を認識し、バルトネツラの安全性を確認し、最高の感染症と血管腫の危険性を確認します。私はバルトネツラの研究室と装飾品の一般的な研究を行っています。バルトネツラの可能性を最大限に発揮し、バルトネツラの可能性を最大限に活用して、さまざまな問題を解決し、精神的な面で最善を尽くすことができます。神経学的障害の原因となるバルトネツラの危険性を指摘し

、精神医学の障害を引き起こす可能性があることを報告します。

ヴァイア :

はじめに

---

ラ・バルトネツラは、さまざまな種類の設定で、皮膚の損傷、陰性、陰謀、悪影響を及ぼします。[1, 2]動物と動物の出会い、その港への移動。ラ・バルトネツラは、完璧なヴェットーリと、フェツイオーネ・トラ・キュイ・プルチ、フェシ・デッレ・プルチ、レッカーテ・オ・グラフィエー・ディ・ガット、ゼッチェ、ピドッキ、そしてモツシュ・チェ・モルドノを持っています。[3 – 6]私は、最高の人生を送り出すために、その特別な場所を訪れ、落書き、モルシーをレクケートします。[7 ~ 10]

*La Bartonella* si trova nelle città, nelle periferie, nelle Zone田舎、[11 – 14] ed è un'infezione em

ergente。究極の判断、バルトネツラの状況をオーメントで確認し、私は精神病の状況を完全に把握し、第一次世界大戦と第二次世界大戦のモンディアルを混乱させます。Ad esempio、およそ100万ディ・ソルダティ・デュランテ・ラ・プリマ・ゲツラ・モンディアレ・フロノ・コルピティ・ダラ・バルトネツラ・キンタナ、[\[15\]](#)男性は、リポルタローノのモルト・スツレ・マニフェスタツィオーニ精神病を訴えて医療を再開します。

最大 15 個の状態で特定されたバルトネツラの数は 9 個です。*B henselae*、*B elizabethae*、*B grahamii*、*B vinsonii subsp. アルペンシス*、*B vinsonii subsp. berkhoffii*、*B grahamii*、*B washoensis*、最近のニュース、*B koehlerae*、*B rochalimae*。[\[16 – 20\]](#) 2 種ごとに、グランディラボラトリナツィオナリオフロノテストをソロで行います[\[21 – 23\]](#) (*B quintana e B henselae*)。

バルトネットプレゼンターの「アティピケ」は、医療のさまざまな問題を解決するために必要な情報を提供します。Ad esempio, *la Bartonella* può causare anomalie della vista, febbre prolungata, dolori articolari, infiammazioni polmonari, malattie respiratorie e granulomi in tutto il corpo。時折、心臓の異常、脾臓の異常、トロンボシトペニカ、骨性感染症、膿疱性丘疹、皮膚の黄斑部のエルツィオーニ、アトライト、アセッシ、[20、24 – 30] 問題のある心臓の心臓と弁過症が発生することがあります。[心臓痛](#)、[\[ 31 – 37\]](#) e [マラッティ神経学](#)。 [\[38 – 42\]](#)

伝統的な神経学認知と精神疾患の統計的相関性。Una Ricerca su PubMed con " *Bartonella* " e le parole di ricerca "depressione", "mania", "bipolare", "depressione grave", "depressione", "ansia",

“panico”、“attacco di panico”、“psicosi” 」、「統合失調症」は、最も重要な問題であると考えています。

- ・ うつ病
- ・ デメンザ
- ・ エンセファロパチア
- ・ 暴力的なコンポルタメント
- ・ 混乱する
- ・ コンポルタメント・コンバットティーボ
- ・ ソスタンツェの混乱[\[43 – 48\]](#)

Alcuni articoli collegano *Bartonella* all'abuso di sostanze. *Bartonella* viene più volte collegata all'alcolismo in presenza di condizioni di vita al di sotto degli 標準。エンドヴェノーザ・ハンノを介して、抗コルピ制御を制御するために、バルトネツラとポツソーノ・エッセレー・エスポストを介して、エンドヴェノーザ・ハンノ・ウ

ソエレヴァタ・プレヴァレンザ・ディ・ドロゲを安全に管理します。[\[49 – 53\]](#) 13 は、バルトネラの重要な精神医学の原因と、先例を探る最も重要な臨床データの重要性を示しています。

ヴァイア :

## カソ 1

---

私は、カロライナ デル ノルドのカンペジオで、41 歳のミニストロ ディ セツソ マスキーレを訪問し、個人的な活動に参加しています。Dopo il viaggio, il paziente ha descritto un piccolo linfonodo ascellare 「dolorante」 sul lato destro e ha riferito di 「febbre」。ハリモツソ 3 ゼツチエ ディ チェルボ イクソデス ダツラ ガンバ エダツラ スパツラ。チンクエ・セツティマネ・ドーポ、アヴェヴァ・ウン・リンフォノド・アチェツラーレ・デストロ「イングロサト・エ・モルト・ファストディオーソ」、「カロリー・エッセツシボ」、イ

ライラ、不穏な墓、そして新しいラビア・エキセントリックな新しいソルジェンザ。常に最新の感覚を持ち、日々の作業を迅速に進めます。ポメリディアン エラノの温度は 98,7 ~ 99,9°F、ogni 3 giorni を登録してください。

ライムの安全性を否定するために、テスト ディソルベグリアンツァの手順を実行し、コントロールとマラッティエ予防センター (CDC) の安全性を確認し、クエスト診断、ソスペッタヴァのバルトネツラを原因として一方的に報告しません。アッタカメント・イクソデス。5 つの時期に、バルトネツラの「アティピカ」を考慮して、さまざまな診断が行われます。

*IgG* および *IgM* は、研究所でのさまざまな検査の中で最も定期的に行われています。IgM 時代のポジティブな結果 1:256。バルトネツラの 2 種については PCR 検査

を行ってください。否定的な場合は、*B henselae* quando ripetuto の場合は陽性となります。

連続したデュランテ・ル・デュ・セットマン、イル・パジエンテ・スヴィルツポ、深刻なアジタツィオーネ、アタッチ・ディ・パニックと憂鬱。うつ病の状況を定量的に把握し、うつ病を診断するためのインベントリ (IDD)。[54 – 56] IDD 時代 39. 深刻なうつ病の診断に至るまでの期間中、深刻な状況 (MD) を調べます。ベック不安在庫 (BAI) の 29 番目の状況では、正常な機能が 0 ~ 7 に達するまで、安全な検査が行われます。(ジュディス・ベック、個人通信、1994 年)。[57 – 59]

時代は、モグリと議論し、議論を交わし、ビッキエリ・ダクチャーナに来て、野球を楽しみ、セディア・ネル・ムロとセコ・ディ・カサ・スアをテーマにしています。前例では、時代を超えた侮辱や不当なコントロール人物、メントレ・オラ

・ファセヴァ・エントランベ・レ・コーゼ・クアシ・オグニ・ジオル  
ノ。ドルミバは 8 ~ 9 試合で、正常な状態で正常に動  
作し、通常の方法で動作します。

双極性障害、うつ病、躁病の先例となる遺伝学、双  
極性障害などの精神疾患の診断を可能にします。 Il  
paziente ha guadagnato 15 libbre in 3 settiman  
e con 1250 mg al giorno di Acido valproico、 qui  
ndi è stato provato con Carbonato di litio、 300  
mg a colazione、 pranzo e cena 、 con 600 mg u  
na volta alla sera (livello Sanguigno 1,1 mEq) /L  
。医療機関は、飯能ではなく、臨床上の重要な問題  
を解決し、安全な状態で、安全な状態で分散すること  
ができます。そのためには、3つの設定が必要であることを  
を証明する必要があります。

12.5 mg の投与量で、12.5 mg の投与量と 50 mg の初回投与量が 3 回の設定ごとに重要な意味を持つため、非常に強力な制御を行うことができます。25 mg のジクエティアピナ アル マティーノ、25 mg のアル ポメリジオと 100 mg の投与量が連続して続きます。Il paziente ha riferito sorprendentemente di Sentirsi "bene" と "contento" con Questo farmaco a Queste dosi.

クエストプント、イルパジエンテアベバアンコーラアングラン デリンフォノド片側ドレンテ、アフアティカメントと新しい丘疹ソットイルブラッチョデストロ。バルトネツラの診断において、丘疹の同意が得られた場合、その原因は永続的な片側性の大きな次元にあります。

スラベースは、2 セットあたり 250 mg のデュエボルテ アル ジョルノとリファンピシーナ 300 mg のデュエボルテ ア

ル ジョルノ コン イル シボを処方されます。パニックに陥った場合は、5 つ以上の情報が表示されます。Peggi orò psichiatricamente: altamente reattivo、emotivamente instabile、marcatamente irritable。50 mg、コラツィオーネ、プランツォ EA 200 mg の投与量で、即時に症状をコントロールできます。

5 つの抗生物質を設定し、マニフェストを開始します。投与量は、25 mg、コラツィオーネ、75 mg のプリマ デイ コリカルシ、センザ リトルノ ディ アギタツィオーネ、またはラビリタ デッコモアです。

トゥッタヴィアは、抗生物質についての 3 つの設定をすべて確認して、安全な検査を行います。PubMed での医療文書の改訂は、抗生物質の理想的な投与量と、バルトネツラの要求に応じて、均一な医療サービスを提供するための長期にわたる管理を行います。トゥッタ

ヴィア、私は抗生物質の 8 種類の抗生物質を使用して、安全な状態を維持します。

私は精神病患者の症状が深刻であり、継続的にエスシタロプラム 5 mg、クエティアピナ 6,5 mg、アルマツティノーノ 25 mg のボルタ アル ジョルノを継続的に服用しています。90% の個人情報に基づき、他の情報と親密な情報を共有します。バルトネッラの提示された問題を解決するために、クエストの精神医学をサポートする必要があります。特定の症状、私はイクソデスのキアラの即時性を認識し、一方的な治療法とスコモドの症状を比較し、その形式の新しい丘疹を実験し、「レッジエラ フェップレ」の感覚を刺激し、リスクを回避します。バルトネラ菌の陽性反応、生体内でのバルトネラ菌の制御における 2 つの抗生物質の抗生物質の陽性反応性、PCR の陽性反応性。感情を表現し、現代の正常な状態を検証することができます。



よう。ハ・スパイガト・チェ・イ・スオイ・ガッティ・レ・レッカー  
ヴァーノ・アビチュアルメント・レ・マニ、時折レッカヴァーノ・  
ラ・ボッカ、ラ・グラフィアノ、ラ・モルデヴァノ・デリカタメン  
テ・メントレ・ジョカーヴァ。

ラ・パジエンテ・ラメント・ヌオーヴィ・アッタッチ・ディ・パニッ  
ク、プロフォンダ・イルレクエテツツァ・エ・うつ病、初期症  
状の期間は、マニフェスト・レ・ヌオーヴェ・エルツィオーニ・ス  
ツラ・コーシアです。ベンゾジアゼピンやセロトニナーナの安  
全性を考慮した標準的な治療法ではありません。心  
臓病の原因として抗うつ薬の治療を行っており、問題  
の原因としてミルタザピンの治療を行っています。トラン  
スダーミカの選択とプロピオンの選択は、ランシアの利益  
をもたらす可能性をもたらします。

Gli unici trattamenti che hanno mostrato un ben  
eficio modesto (30%-40%) per Questo paziente

sono stati l'escitalopram ad una dose gradualmente aumentata a 30 mg al giorno, che è eccellente al dosaggio approvato dalla Food and Drug Administration statunitense e superiore al dosaggio raccomandato sulla base di la maggior parte delle ricerche sul farmaco, ma questa dose ha ipotizzato la sua disperazione rispetto a uno studio di 3 settimane con 20 mg. IDD ha, 34 giorni da 23 giorni a 30 mg di dosaggio. SAM-e (S-アデノシルメチオニナ) 600 mg di OGNIMATTINA. QUESTO è, un disturbo per il giorno con un dosaggio di 1200 ~ 1600 mg di dosaggio. 憂鬱な状況を乗り越えるために、「使い道」を見つけてください。 [\[60\]](#) ~ [\[65\]](#)

けいれんの危険性とセロトニンの症状が 2 つの抗うつ効果にあり、1 つの治療法が適用され、安全な治療が

必要な場合は、ベネフィットの活動に参加する必要があります。[\[ 66、67 \]](#)

8つの問題を解決し、中程度のうつ病が残っている状態を回復します。エシタロプラム 60 mg と SAM-e 1200 mg を 10 セット投与すると、うつ病の 90% が寛解する可能性があります。非現存性セロトニン作動性正常ミオクローノ、硬直性、無反射性、軽症、混乱、興奮、過敏症、三月症状の不安定性、二月性、吐き気、下痢、下痢、吐き気、またはラブドミオリシ。Avev a un po' di ansia residua、che è stata trattata con clonazepam 2 mg、1 compressa una volta al mattino e al pomeriggio e 2 qhs 、senza effetti Collateali di sedazione。

情報を精緻に制限し、傷跡を残す記憶と治療の必要性を高め、恩恵を享受できる精神療法を提供します。

Il suo psichiatra notò: 「脳の拡散を妨げる可能性があり、診断不能な感染症を引き起こす可能性があります。非常に重要な画像を表示します。2月のグラフィオディガットで、フェツブレダグラフィオディガットを見つけて、バルトネツラの血管腫の感染を防ぐために、フェツブレダグラフィオディガットを見つけてください。

Il paziente è stato sottoposto a cefuroxima 250 mg due volte al giorno e azitromicina 250 mg 3 volte al giorno。デュランテラセツティマナ 1、イルパジエンテ、ディベンタートピウトリステ、イライラとスペランツアの過敏症、パニックのような状況で、クロナゼパムの被害を軽減します。Tuttavia、entro la settimana 2 sembrava avere meno憂鬱と興奮。ソプレнденテメンテ、デュランテラセツティマナ 3、ジオルノ 16 年頃、肌の色を確認し、正常な状態で正常な状態を維持します。

8つの問題が発生し、うつ病と不安症の症状が悪化しています。ハ・トレラート・ウナ・フォルテ・リドゥツィオーネ・ディ・エントランビ・イ・ファルマチ、オヴェロ・レスシタロプラム・エ・スタト・アツバツサト、25mgアル・ジヨルノ・コン・ウナ・ディミヌツィオーネ・デル・クロナゼパム、1mgウナ・ボルタ・アル・マッティーノ、ポメリジオ・セラ。SAM-eを完全に理解します。ルーチンごとに、医療とプログラムをソロで行うことができるようになります。

Dopo 6 は、およそ 50% の期間に血管腫の細菌が存在し、適切な時期に適切な感染症が発生したり、対人関係に敏感になったり、生理前に重大な混乱が生じたり、トリステツツアにイライラしたりする可能性があります。

Il suomedico thinkò che aveva una recidiva *di B artonella* e le prescrisse rifampicina 300 mg 3 vo

Ite al giorno e cefdinir 300 mg 3 volte al giorno per 12 settimane. Ha poi sostituito il Cefdinir con azitromicina 500 mg を 6 セットあたり 1 回の圧縮で投与します。Dopo Questo trattamento、la paziente è tornata al livello basale、ora は、単独で 10 mg のジ エシタロプラム アル ジョルノ、コン クロナゼパム 0,5 mg のアル マティーノと 0,75 mg のボルタ アラセラ、ウナ フラツィオーネ デッレ ドーシ プレフォリオを想定しています。Il medico di famiglia ritiene che gli antibiotici siano stati utili, ma è ancora incerto sul protocollo antibiotico "migliore" per *Bartonella*, sulla sulla suarevione dei mani sulle infezioni and degli articoli di Medline.

ヴァイア :

カソ 3

---

中西部の人々は、大人の社会、パニック障害、パニック障害などの新しい社会的活動について、さまざまな情報を収集しています。私はうつ病のIDD時代34から40まで、すべてを解決し、アッサンツィオーネのステッサ・セツティマナを経験しています。BAI時代は29年です。墓は今もなお穏やかな状態にあります。フロリダのカンペジオとカッチャの時代を超えて、精神科医のスターヴァ・ベネ・フィンチエの人生を、パイオ・ディ・メシ・プリマで過ごしましょう。9 giorni 頃、「インフルエンザ」と「2月」の感情が成功しました。Ha anche sviluppato 3 nuove 丘疹の色は、sotto il braccio sinistro です。肌の美しさ、最高のアタッカーメンティ、キアラのエッセンスをすべて完璧に保ち、カニやガッティを守ります。トゥッタヴィアは、私たちの安全を守るために、私とフォグリーとチェスプグリのセルヴァティシ・デュランテ・ラ・カッチャと、私たちの安全を守ります。完全に制御する必要はありません。

ライムとマスターソンのマラッティアごとに抗生物質を即時投与し、すべての健康状態、すべての位置、すべての情報を完全に把握し、卵巣皮膚炎、ロザエオモジエネアの感染を防ぎます。アツラ・カヴィリア。

ELISA Lab Corp の検査では、ライム 2 番目のソルベグリアンザ デルCDC 基準でウェスタンブロットを検査し、23 日以内にウェスタンブロット IgM を検査します。Il suo striscio Differentenziale di Sangue ha evidenziato coccobacilli attaccati ad alcuni globuli rossi (RBC), una capacità rara per i Batterii, ma riscontrata in alcune infezioni da specie *Bartonella americana*. *Bartonella*による PCR は否定的であり、IgG a 1:128 に対して肯定的です。メドラインは、バルトネラ菌に対する国際的な検査 PCR 検査を最も正確に行います。宣誓能力を最大限に高めるための最新の記事。Ha deciso di trattare la *Bartonella* in Base

all'elevata esposizione alle zecche del paziente、  
all'infezione da zecche del suo amico、alle 3 nuo  
ve papule del paziente、allo striscio di Sangue  
manee al suo titolo anticorpale anormale。

L'internista ha trattato il paziente con doxiciclina  
100 mg due volte al giorno per 3 settimane sen  
za alcun beneficio se non una Leggera Riduzion  
e del mal di testa。 Lo ha poi trattato con rifamp  
icina 300 mg due volte al giorno in combinazion  
e con trimetoprim-sulfametossazolo alla dos di  
160 mg/800 mg due volte al giorno 1 回あたり。

Il paziente ha avuto un notevole beneficio da Q  
uest'ultimo trattamento ed è tornato per '85% a  
l suo livello psichiatrico di Base.非プレゼンタヴァピ  
ウアルクナ アニシア ソーシャル、混乱を避けるために一

一般的なパニックを引き起こします。La sua MD 時代の  
IDD di 12 (限界値) は、100 mg のセルトラリナを基  
準に設定されています。

14 年頃、自動車事故が発生し、病院での富裕層と  
安全性を確保するためにさまざまな介入が行われまし  
た。7 月 12 日頃、精神病の初期症状が発生しまし  
た。バルトネツラの精神医学的診断を行うことができま  
す。Il paziente è stato sottoposto a rifabutina 30  
0 mg al giorno con azitromicina 250 mg due vol  
te al giorno。

ネルコルソディ4-5セッティマン、私は約50%の精神病  
患者の症状の緩和、5セッティーマンの寛解とうつ病、セ  
ルトラリーナ100 mgの治療による精神病患者の回復。  
セルトラリナでの定期的な制御は、時間の経過とともに

、100 mg または 150 mg の投与量を維持し、通常の状態で行われます。

ヴァイア :

## リスルティ

---

私は、バルトネラ・センブラバノの一般的な意見を前例として議論し、抗うつ薬、ベンゾジアゼピン、正常な抗精神病薬などの治療法を検討しています。抗生物質を安全に摂取するために、バルトネッラの感染症を予防する必要があります。重要な意味を持つ方法で、その瞬間は、日常生活の中で最も重要な役割を果たすことができます。

ヴァイア :

## ディスカッション

---

*La Bartonella* con sinomi psichiatrici è rarament  
e は、医療に関する議論を行っています。探求の中で、  
スタジオ ディ パジエンティ コン ヌオーヴァ キアラ モビリタ  
精神病、アジタツィオーネ即興演奏、パニックやうつ病  
の治療、バルトネッラの可能性を探求します。

データは、クエスト・アーティコロとインクルードに含まれるこ  
とを証明します: 地域の風土と動物の風土が来るガッ  
ティ・ジョバーニ、パンクの証拠、可能性のある伝達、異  
常な異常、「フェツブレ」、反身体陽性の検査、国連 P  
CR 結果陽性、丘疹性丘疹、血管腫性細菌の皮膚  
感染、安全性の向上に必要な精神科医の必要性、  
有益な情報の限界、墓の傷跡の記憶。

La presenza di sinomi psichiatrici indotti da *Bart  
onella* non dovrebbe sorprendere。プリモ・ルオーゴ  
で、私は精神医学を混乱させ、大脳を混乱させ、脳の

多様性を妨げるバルトネラの記録を作成します。2 番目に、バルトネラの関連付けられたグロブリ ロッシ、バルトネラ(ウナ フラツィオーネ デッレ ディメンションディ グロブリ ロッシ) は、バスコラーレ デル セルヴェッロのシステムに関連しています。[68 – 83]バルトネラの可能性のある病的精神病の影響によるバルトネラの症状、脳性疾患、バルトネラの存在による神経学的障害、けいれん、片麻痺、虚血性発作、ミエライトトラバーサと肉芽腫症の症状が発生する複数、来 てくださいメニンジャイトとエンセファライトが来ます。[ 38、84、85 ] ==

無限に、9 つの正貨をすべての正貨として、さまざまな可能性を探り、正貨の可能性を探り、安全な精神状態を維持することができます。バルトネラの長期にわたる精神病治療を行っています。3 つ目は、その状態をレトロに観察することです。ネッスンは、米ごとにすべてを学びます。臨床診断の公式に応じて、必要な情報を

正確に検査し、豊富な情報を得ることができます。Poiché *la Bartonella* è un'infezione emergente, non esiste uno standard chiaro di cura con il trattamento antibiotico, essendo stato condotto Solo 1 studio randomizzato in doppio cieco che ha Coinvolto un breve studio con azitromicina。[86]

ラ・バルトネツラは緊急事態に直面しており、危険な状況にあります。バルトネツラを制御する生体内での緊急事態は、緊急に発生する可能性があります。検査室での診断を修正し、実際の生体内でのほとんどの検査を行って、オフロノではなく均一な検査を行い、バルトネツラソノピッコリとその検査結果をさまざまな制限で確認します。Pertanto、非プロポニアモ抗生物質、dosaggio o durata del trattamento ottimali nel trattamento della *Bartonella*。3か所の質問に基づいて、必要な情報を確認し、手紙の内容をサポートします。

バルトネッラの影響を確実に証明する必要がある場合は、バルトネッラの影響を確実に証明し、可能性を探り、バルトネッラの影響を完全に証明してください。

ヴァイア :

## 結論

---

バルトネッラの種の数調べて、バルトネッラの種数を確認し、*国家の研究室*で遺言書を確認してください。

Alcuni antibiotici sembrano avere un effetto, ma il dosaggio e la durata non sono chiaramente *安定性* o indicati da un'ampia *revisione della Letteratura*. 完全な撲滅に向けて、安全な医療を提供するために、臨床試験を行ってください。免疫力を維持するために、重要なストレスを引き起こす身体的ストレス医療を可能にする可能性があります。重要な重要事

項は、バルトネツラの重要な情報であり、単独ではない神経学的障害や精神医学的障害を引き起こします。

[ヴァイア :](#)

## ピエ・ディ・ページに注意してください

---

[コメントはありますか:バルトネツラの影響は、パニックやうつ病の影響を及ぼしますか?](#)私はコメントを書くことができ、記事の内容を詳しく知ることができます。

私は、*MedGenMed*の[副](#)監督である Paul Blumenthal 医師に、すべての責任を負うよう、電子メールでMedGenMedに連絡することをお知らせします。 [ude.drofnats@nemulbp](mailto:ude.drofnats@nemulbp)

[ヴァイア :](#)

## 寄稿者情報

---

James L. Schaller、ナポリ、フロリダ州タンパ 電子メール: [moc.liamqgrabme@rellahcsj](mailto:moc.liamqgrabme@rellahcsj)。

グレン A. バークランド、Scuola di Odontoiatria della Temple University、ペンシルバニア州フィラデルフィア

PJ ラングホフ、ウィスコンシン州ハステイスフォード。

[ヴァイア :](#)

## リフェリメンティ

---

1. マセイ F、ゴリ L、マッキア P、マッジオーレ G. Lo spettro espanso della bartonellosi nei bambini. *インフェッタ ディス クリン ノースアム*. 2005;19:691 –711。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
2. 村上和人、塚原正人、常岡博人、ほか。 Malattia da graffio di gatto: 130 件の分析。 *J・インフェッタ・ケマザー*。 2002;8:349 –352。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
3. ジャーディン C、ワルドナー C、ウォッサーG、レイトン FA。 リチャードソンの細胞診によるバルトネラの感染を制御する実験装置です。 *JワイルドルDis*. 2006;42:750 –758。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
4. Sreter -Lancz Z、Tornyai K、Szell Z、Sreter T、 Marialigeti K. Infezioni da Bartonella nelle pulci (Siphonaptera: Pulicidae ) e mancanza di Bartonella nelle zecche (Acaricari: Ixodidae) dall'Ungheria。 *フォリアパラシトール(プラハ)* 2006;53:313 –316。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
5. イースターブルック JD、カプラン JB、ヴァナスコ NB、他。 米国メリーランド州ボルティモラから、動物病院への移動が必要です。 *エピソード・インフェット*。 2007;ゲンナヨ15:1–8。 [ Epub prima della stampa ] [ [Articolo gratuito PMC](#) ] [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
6. Izri A、Depaquit J、Parola P. [Pappataci flebotomi e trasmissione di Agenti patogeni nel bacino del Mediterraneo] [Articolo in francese] *Med Trop (Marte)* 2006;66:429–435。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
7. ヴィンセント JM、デマーズ DM、バツソ JW。 *エサンテミ・インフェッティヴィ・インフェツィオーニ・インソリテ*。 *アドルスク医学*。 2000;11:327 –358。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
8. ヴィンセント JM、デマーズ DM、バツソ JW。 *エサンテミ・インフェッティヴィ・インフェツィオーニ・インソリテ*。 *アドルスク医学*。 2000;11:327 –358。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
9. マセイ F、メッシーナ F、タリーニ I、他。 *バルトネッラヘンセラの感染症検査の検査を行います*。 *Eur J Pediatr* 。 2000;159:416 –419。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

10. ミコライチックMG、オライリーKL。バルトネラ・ヘンセラエのワクチン接種におけるマラッティア臨床。Sono J Vet Res. 2000;61:375 –379。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
11. Reeves WK、Szumlas DE、Moriarity JR、他。エージェントは、ピドッキ ネイピドッキ (フチラプテラ) ディロデイトリとボヴィーニプロビニエンティダツレギットを管理します。J・パラシト2006;92:313 –318。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
12. リーブス WK、ネルダー MP、コレツキ JA。Bartonella e Rickettsia nelle pulci e nei pidocchi dei mammiferi nella Carolina del Sud、USA J Vector Ecol. 2005;30:310–315。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
- 、エンドヴェノーサ svedesi を介して、バルトネラ属のバルトネラ属菌の研究を行っています。APL。2003;111:507 –513。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
14. マラッティア・ダ・グラフィオ・ディ・ガット。エメディシナ。Disponibile all'indirizzo: <http://www.emedicine.com/emerg/topic84.htm> Accesso effettuato il 6 settembre 2007.
15. ジャクソン LA、スパッチ DH。バルトネラ・キンタナ・トラ・レ・パーソン・センザ・ディモラの伝染病。Emerg Infect Dis. 1996;2:141 –144。 [ [PMC 無償記事](#) ] [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
16. ヘラー R、クビナ M、マリエット P、他。バルトネラ・アルサティカsp. 11月、una nuova specie di Bartonella isolata dal Sangue di conigli selvatici。Int J Syst Bacteriolo。1999;49(Pt 1):283–288。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
- Maurin M、Raoult D。Bartonellaの影響: 診断上の問題。カール Opin Infect Dis. 1998;11:189 –193。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
18. Marie JL、Fournier PE、Rolain JM、Briolant S、Davoust B、Raoult D。Rilevazione Moecolare di Bartonella quintana、B. elizabethae、B. koehlerae、B. doshiae、B. taylorii e Rickettsia felis nelle pulci di robitori raccolte inアフガニスタン、カブール。Am・ジエイ・トロップ・メッド・ヒグ。2006;74:436 –439。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

19. ブールイ HJ、チャン CC、ヘン JB、カステン RW、チョメル BB。バルトネッラの感染症に関するファクトリー協会。リセルカ獣医 2005;36:383–410。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
20. ヴケリッチ D、ベニク B、ボジノビッチ D 他 マラッティア・エプトスプレニカ・ダ・グラフィオ・ディ・ガットのバンビーノで、最高のインソリットを。ウィーン クリンヴォッヘンシュル。2006;118:615–618。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
21. Nome del test Lab Corp: Bartonella 抗体プロファイル。テスト番号 163162。すべてのインドリッツォの処分: <http://www.labcorp.com/dos/index.html> 2007 年 9 月 6 日のアクセス。
22. Nome del test Quest Diagnostics: Anticorpo della specie Bartonella (IGG、IGM) conライフルソ・アイ・ティトリ。コード 34251。すべてのインドリッツォの処分: <http://cas2.questdiagnostics.com/scripts/webdos.wls?MGWLPN=QDCWS0209&wlap=DOS&OrderCode=34251&SITE=26&SearchString=B%2A&tradio=title> Accesso effettuato il 6 settembre 2007。
23. フォーカステクノロジー。Pannello degli anticorpi della Bartonella、コーデス IFA (siero) 4020。E DNA della Bartonella、PCR。コード 47000。すべてのインドリッツォの処分: [http://www.focusdx.com/focus/1-reference\\_laboratory/search\\_frame.asp?f=2](http://www.focusdx.com/focus/1-reference_laboratory/search_frame.asp?f=2) Accesso il 6 settembre 2007 年 9 月。
24. Ziemssen F、Bartz-Schmidt KU、Gelissen F。続発性片側緑内障と神経網膜症：症状の発現。ジャパン・ジェイ・オプタルモロジ。2006;50:177–179。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
25. Ben-Ami R、Ephros M、Avidor B、他。マラッティア・ダ・グラフィオ・ディ・ガット・ネイ・パジエンティ・アンツィアーニ。クリン感染症 2005;41:969–974。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
26. レイノルズ MG、ホルマン RC、カーンズ AT、オライリー M、マッキストン JH、シュタイナー CA。マラッティア・ダ・グラフィオ・ディ・ガット・ライバンビーニ・ネグリ・スタティ・ユニティに関する疫学情報。Pediatr Infect Dis J. 2005;24:700–704。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

27. Ridder GJ、Boedeker CC、Technau-Ihling K、Sander A. マラッティア ダ グラフィオ デイ ガット: マニフェストツイオーニとジェスティオネ 耳鼻咽喉科。チルルジア・テスタ・コロ・オトリノラ リンゴイアトラ。2005;132:353 –358。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
28. ランパード LW、スコット MA。 Malattia da graffio di gatto: 前向きな物語、臨床とパト ロジケ。ソノ・J・クリン・パソール。2004;121(補足):S 71–80。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
29. Metzkor -Cotter E、Kletter Y、Avidor B、他。分析は、肺の終結と追跡臨床のマラッ ティアとグラフィオデイガットです。クリン感染症2003;37:1149 –1154。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
30. 村上和人、塚原正人、常岡博人、他。 Malattia da graffio di gatto: 130 件の分析 。J・インフェッタ・ケマザー。2002;8:349 –352。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
31. Houpiikian P、Raoult D. センタートロディリフェリメントにおけるエモコルトウーラあたりの心 内膜炎否定性: 診断 eziologica di 348 casi。メディシナ (ボルティモラ) 2005;84:162 –173 。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
- 32.ペダーセンBK。心臓の即興演奏、オリエンティスティスヴェデシ: ミステロリゾルト? Scand J Med Sci Sport。2001;11:259 。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
33. マイニンガー GR、ナダスディT、フルバンRH、ボリンジャー RC、ボーマン KL、ヘア JM。バルト ネラ・ヘンセラエ感染症 (マラッティア・ダ・グラフィオ・デイ・ガット) Am J Surg Pathol 。2001 ;25:1211 –1214。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
34. Wesslen L、Ehrenborg C、Holmberg M、他。バルトネツラは、死後の心臓の即興性 を重視し、悪性の悪影響を及ぼします。スカンド J インフェッタ Dis。2001;33:429 –438。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
35. McGill S、Wesslen L、Hjelm E、Holmberg M、Rolf C、Friman G. Analisi sierolog ica ed epidemiologica della prevalenza di Bartonella spp.反コルピ ネグリ オリエンティ

スティ デライト スヴェデシ 1992 ~ 1993 年。スカンド J インフェクタ Dis. 2001;33:423 –428。  
[ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

36.ペダーセンBK。 [Si sospetta che il Batterio Bartonella sia la causa della morte im  
provvisa dei doori di Fondo svedesi.] [Articolo in danese] Ugeskr Laeger。 2001;16  
3:2951 。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

37. Posfay Barbe K, Jaeggi E, Ninet B, 他。アン・バンビーノのバルトネラ・キンタナの内心  
筋。英語 J Med. 2000;342:1841 –1842。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

38. ガーバー JE、 ジョンソン JE、 スコット MA、 マドウスダン KT。メニンジヤイト・エド・エンセファライ  
ト・ファタリ・ドヴテ・アル・バテリオ・バルトネラ・ヘンセラエ。 J 科学法医学者。 2002;47:640 –  
644。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

39. [Nessun autore elencato] マサチューセッツ総合病院。エセルシジ・クリニックオパトロジ  
セツティマナリ。カソ 1-1998。 11 年間の攻撃を行います。英語 J Med. 1998;338:112–119  
。誤り: N Engl J Med 1998;338:483 。コメント: N Engl J Med。 1998;338:1549 –1550。  
[ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

40. ウィーラー SW、 ウルフ SM、 スタインバーグ EA。エンセファロパティア・ダ・グラフィオ・ディ・ガッ  
ト。神経痛。 1997;49:876 –878。コメント: 神経学。 1998;51:1239 。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

41. チャン L、 ライリー KM、 スナイダー HS。 Una presentazione insolita di encefalite da g  
raffio di gatto. J Emerg Med. 1995;13:769 –772。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

42. Centri per il controllo e la prevenzione delle malattie (CDC) Encefalite associat  
a alla malattia da graffio di gatto – Contee di Broward e Palm Beach, Florida, 1994  
. MMWR Morb Mortal Wkly Rep 。 1994 ;43: 909、 915–916。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

43. ベイカー J、ルイス・ロドリゲス R、ホイットフェルドM、ヘオン V、ベルガー TG。血管腫性桿菌: 急性精神病性ウイルスによる免疫不全ウイルスによる治癒の原因。精神科 J Clin. 1995;56:161 –166。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
44. マーラCM。バルトネラ・ヘンセラエの神経学的合併症。カール オピン・ニューロール。 1995;8: 164 –169。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
45. ハーベイ RA、ミッセルベックWJ、アップホールド RE。 Malattia da graffio di gatto: una causa insolita di comportamento combtivo. Sono J Emerg Med. 1991;9:52 –53。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
46. アンジボーG、バラグ JP、ラフォンタン JF。 [Encefalopatia da Bartonella hensalae ] [フランス語の Articolo] Presse Med. 2005;34:297 –298。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
47. Singhal AB、Newstein MC、Budzik R、他。バルトネラの拡散における異常な影響。 J ニューロイメージング。 2003;13:79 –82。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
48. 遠山正人、上江津和人、中本亜人、ほか。 [Un caso di malattia da graffio di gatto con encefalopatia] [Articolo in giapponese] 感染症学 ザッシー。 2002;76:113 –117。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
49. Chmielewski T、Podsiad3y E、Tylewska-Wierzbanowska S。 Presenza di Bartone lla sppin varie Popolazioni umane。 ポール J微生物。 2007;56:33 –38。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
50. ボルポリS、アフシャリ NA、ワトキンス L、フォスター CS。 Presunta sindrome oculogian dolare da Bartonella quintana 。 眼球免疫炎症。 2007;15:41 –43。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
51. Rolain JM、Arnoux D、Parzy D、Sampol J、Raoult D。 バルトネラ・キンタナによる感染実験。 アンNYアカデミー科学。 2003;990:605 –611。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

52. プレスナツハ AS、ホア JM、エイキンスJ。Endocardite con coltura negativa: contributo delle infezioni da Bartonella。クオーレ。1997;77:474 –476。 [ [PMC 無償記事](#)] [ [PubMed](#)] [ [Google Scholar](#) ]
53. カマー JA、フリン C、レグネリー RL、ヴラホフD、チャイルズ JE。Anticorpi contro le specie Bartonella nei tossicodipendenti per via endovenosa dei centri Urbani di Baltimore, Md. Arch Intern Med. 1996;156:2491–2495。 [ [PubMed](#)] [ [Google Scholar](#) ]
54. Zimmerman M、Coryell W。うつ病の診断に関する自動評価の有効性。精神科医。1988;45:738 –740。 [ [PubMed](#)] [ [Google Scholar](#) ]
55. Zimmerman M、Coryell W。うつ病を診断するための目録 (IDD): 診断ごとに自動評価を行い、うつ病の可能性を調べます。J は臨床心理士に相談します。1987;55:55–59。 [ [PubMed](#)] [ [Google Scholar](#) ]
56. Zimmerman M、Coryell W、Corenthal C、Wilson S。うつ病の診断ごとに自動評価を行います。精神科医。1986;43:1076 –1081。 [ [PubMed](#)] [ [Google Scholar](#) ]
57. Leyfer OT、Ruberg JL、Woodruff-Borden J。Esame dell'utilità del Beck Anxiety Inventory と dei suoi fattori が、不安をかき立てるために上映に来ます。Jディトゥルボ ダンシア。2006;20:444 –458。 [ [PubMed](#)] [ [Google Scholar](#) ]
58. カバコフRI、シーガル DL、ハーセンM、ヴァン ハッセルト VB。ベック不安インベントリと状態特性不安インベントリは、精神医学的外来患者向けに独自に開発された精神測定および診断ユーティリティです。Jディトゥルボ ダンシア。1997;11:33 –47。 [ [PubMed](#)] [ [Google Scholar](#) ]
59. Creamer M、Foran J、Bell R。非臨床におけるベック不安症の目録。コンポルタメント・レス・テル。1995;33:477 –485。 [ [PubMed](#)] [ [Google Scholar](#) ]
60. ゴレン JL、ストール AL、ダミコ KE、サルミエント IA、コーエン BM。S-アデノシル-L-メチオニナ (SAME) nell'uomo。ファーマテラピア。2004;24:1501 –1507。 [ [PubMed](#)] [ [Google Scholar](#) ]

61. Delle Chiaie R、Pancheri P、Scapicchio P. Efficacia e tollerabilità dell'S-adenosil-L-metionina 1,4-butanedisulfonato orale e intramuscolare (SAME) nel trattamento della depressione maggiore: 2 つの研究施設でのイミプラミナの対峙。ソノ・J・クリン・ナットル。2002;76:1172S–1176S。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
62. Mischoulon D、Fava M. Ruolo della S-アデノシル-L-メチオニナ nel trattamento della depressione maggiore: una revisione sistematica. ソノ・J・クリン・ナットル。2002;76:1158S–1161S。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
63. ディ・ロッコ A、ロジャース JD、ブラウン R、ヴェルナー P、ボッティリエリ T. Uno studio clinico con S-アデノシル-L-メチオニナ、ミリオラ、うつ病、マラッティア ディ パーキンソン。無秩序の動き。2000;15:1225 –1229。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
64. ウィリアムズ AL、ジラルド C、ジュイ D、サビナ A、カツツ DL. S-アデノシルメチオニナ (SAME) は、うつ病に関する治療法です: una revisione sistematica. クリン・インベスト・メッド。2005;28:132 –139。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
65. Alpert JE、Papakostas G、Mischoulon D、他。S-アデノシル-L-メチオニナ (SAME) は、うつ病の予防に効果的です: uno studio aperto a segitto di risposte parziali o complete di un gruppo di controllo. J クリンサイコファーマコ。2004;24:661 –664。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
66. ボドナー RA、リンチ T、ルイス L、カーン D. セロトニン作動性シンドローム。神経痛。1995;45:219 –223。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
67. レーンR、ボールドウィン・D. シンドロームのセロトニン作用に関するインドタ・ダ・イニビトリ・セレットイヴィ・デラ・リキアプタツィオーネ・デラ・セロトニン: 改訂版。J クリンサイコファーマコ。1997;17:208 –221。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
68. メホック JR、グリーン CE、ゲラルディーニ FC、ハーン TW、クラウス DC. Bartonella henselae が in vitro で侵入したエリトロシチフェリーニ。インフェクティオン。1998;66:3462 –3466。 [ [PMC 無償記事](#) ] [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

69. コルディック DL、ブライツシュヴェルトEB。 Presenza intraeritrocitaria di Bartonella henselae 。 J クリンマイクrobiol。 1995;33:1655 –1656。 [ [PMC 無償記事](#)] [ [PubMed](#)] [ [Google Scholar](#) ]
70. マンドル T、アインゼレH、シャーラー M、他。生殖細胞の細胞感染症 CD34+ と Bartonella henselaeが B. henselae内での存在を決定します。サンゲ。 2005;106:1215 –1222。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
- 71.メドコバZ。 [バルトネローゼ] [セコのアーティコロ] クリンマイクrobiol インフェク。 2004;10: 207 –213。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
72. シュミット MC、シューライン R、デヒオM、デネッカーG、カレナ I、デヒオC。 Il sistema di secrezione VirB di tipo IV di Bartonella henselae media l'invasione、 l'attivazione proinfiammatoria e la protezione antiapoptotica delle cellule endoteliali。 モル微生物。 2004;52:81 –92。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
73. Rolain JM、 Locatelli C、 Chabanne L、 Davoust B、 Raoult D。フランスの飼い猫におけるBartonella clarridgeiaeおよび Bartonella henselaeの有病率。クリン・ダイアグ・ラボ・イミュノール。 2004;11:423 –425。 [ [PMC 無償記事](#)] [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
74. Seubert A、 Hiestand R、 de la Cruz F、 Dehio C。 Un macchinario di coniugazione e Batteriaca reclutato per la patogenesi。 モル微生物。 2003;49:1253 –1266。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
75. Rolain JM、 Maurin M、 Mallet MN、 Parzy D、 Raoult D。バルトネラ・キンタナの抗生物質に対する敏感な文化。 Agenti抗菌剤 Chemoter 。 2003;47:614 –619。 [ [PMC 無償記事](#)] [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
76. Schulein R、 Dehio C。 Il sistema di secrezione VirB /VirD4 di tipo IV di Bartonella è essenziale per stabilire un'infezione intraeritrocitaria。 モル微生物。 2002;46:1053 –1067。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

77. Rolain JM、Foucault C、Guieu R、La Scola B、Brouqui P、Raoult D. 人間のエリスリティにおけるバルトネラ・キンタナ。ランチエッタ。2002;360:226 –228。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
78. Rolain JM、La Scola B、Liang Z、Davoust B、Raoult D. Rilevazione immunofluorescente di Bartonella henselae intraeritrocitica in gatti Naturalmente infetti. J クリニックバイオ。2001;39:2978 –2980。 [ [PMC 無償記事](#) ] [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
79. Koesling J、Aebischer T、Falch C、Schulein R、Dehio C. Avanguardia: cessazione mediata da anticorpi dell'infezione emotropica da parte del patogeno intraeritrocitario del topo Bartonella grahamii 。 J イムノ。2001;167:11 –14。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
80. Schulein R、Seubert A、Gille C 他。細胞内への侵入およびコロニツアジオンの持続的異常性。Una strategia parassitaria unica del patogeno emergente Bartonella。 J Esp Med. 2001;193:1077 –1086。 [ [PMC 無償記事](#) ] [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
81. Guptill L、Wu CC、Glickman L、Turek J、Slater L、HogenEsch H. Bartonella henselae細胞外および擬似封入、内部環境内での実験の効果。微生物獣医。2000;76:283 –290。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
82. バツソ JW、ヴァンセント JM、ペルソナ DA。バルトネラの世界のスペクトル: II. マラッティア・ダ・グラフィオ・ディ・ガット。 Pediatr Infect Dis J. 1997;16:163 –179。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
83. コルディック DL、ブライトシュヴェルトEB。 Presenza intraeritrocitaria di Bartonella henselae 。 J クリニックバイオ。1995;33:1655 –1656。 [ [PMC 無償記事](#) ] [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]
84. プリゲドゥムM、ギアゲドゥA、ジェヌグF、ギアゲドゥM、マロスF. てんかん 継続的なマラッティア・ダ・グラフィオ・ディ・ガット。没収。2004;13:191 –195。エラー: Sequestro。2006;15:357 。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

85. ロシャ JL、ペツレグリーノ LN、リエラ LV、マーティンズ LT。急性エミプレジア・アソシアータ・ア  
ツラ・マラッティア・ダ・グラフィオ・ディ・ガット。ブラズ J インフェツタ Dis. 2004;8:263 –266。 [ [Pu  
bMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]

86. コラード DA。Trattamento della malattia da graffio di gatto。カール オピニオン ペディ  
アトラ。2001;13:56 –59。 [ [PubMed](#) ] [ [Google Scholar](#) ]